

鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)

事務事業No.41-3

記入日 平成25年5月24日

点検日 平成25年5月28日

事務事業(予算)名	公共交通機関の整備促進に要する経費		作成課・係	都市計画課都市政策室			
政策名	3.1 魅力あるまちづくりを進めます		施策	3.1.2 鉄道新線開業等に対する	基本事業	3.1.2.1 東京10号線延伸新線の事業化	
関連計画・根拠法令等	①	②	③	④			
事業区分	継続	前回総合評価	6.精査検証	実施計画掲載	無	行革推進対象	無
事業実施主体	2. 県						
開連類似事業名	予算(款)	予算(項)	予算(目)	予算コード	08-04-01-04-01		

1. 事業の目的	(1)事業の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。※補助事業等の場合は負担金・補助金の支払先も記入)	対象指標	指標名称(対象の大きさを表す)	データ出典
	東京10号線延伸新線の実現	①整備延長		業務取得
		②		
		③		
(2)事業の概要(手段、具体的な事務事業のやり方、手順、詳細を記入)	活動指標	指標名称(手段や活動内容を示す)	データ出典	
東京10号線延伸新線の実現について、運輸政策審議会の答申を受け、「沿線の開発状況等を見極めつつその整備を検討することとされたい」とした内容を基に、関係する千葉県、市川市及び鎌ヶ谷市が協力体制をもって鉄道事業として成立させるための条件整備の整理を行う。	①要望活動の回数		業務取得	
	②研修会の回数		業務取得	
	③			
(3)事業の意図(対象をどのようにしたいのか。どう変えたいのか。※どんなサービスニーズに応えるかでも可)	(基本事業成果指標等)	指標名称(意図の達成度を示す)	データ出典	
東京10号線延伸新線の事業化が可能であるか、将来予測として沿線開発や乗降客数等の需要予測の基礎調査を行う。	①鉄道駅乗降客数(1日あたり)		統計かまがや	
	②市内バス利用者数(1日あたり)		統計かまがや	
	③総会・幹事会・担当者会議開催回数		業務取得	
(4)結果(どんな結果に結びつけるのか。※基本計画の施策の「めざす姿」との関わり)	施策成果指標	指標名称(結果の達成度を示す)	データ出典	
新線の実現によって、新鎌ヶ谷駅のポテンシャルが更に向上されることにより、千葉県北西部の交通利便性向上と、市域内の新駅構想とされる中沢地区の活性化に大きく寄与される。	①新市街地整備事業着手地区数		業務取得	
	②			
	③			

2. コスト・実績の推移	年度	単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標年度(年度) 今後の計画総額	
			決算	決算	決算	決算見込み額	予算額		
コスト・指標	(1)総事業費	自動計算	千円	57	32	32	32	26	0
	①国庫支出金		千円						
	②県支出金		千円						
	③市債・その他財源		千円						
	④一般財源		千円	57	32	32	32	26	
	(2)総所要時間	0.5単位	時間/年	104	96	904	820	860	0
	①+②+③	自動計算							
	①正職員(時間内)		時間/年	104	96	900	820	860	
	②正職員(時間外)		時間/年			4			
	③非常勤職員		時間/年						

3. 指標の推移等	指標		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標年度(27年度) 将来目標値
	(1)対象指標	①	km	0	0	0	0	0
②								
③								
(2)活動指標	①	回	2	1	1	1	1	
	②	回	3	2	1	1	0	
	③							
(3)成果指標 ※基本事業成果指標等	①	人/日	181,914	182,251	184,529	185,263	調査中	
	②	人/日	1,300	1,273	1,254	1,302	調査中	
	③	回	4	5	8	15	7	
(4)施策成果指標	①	数					0	0
	②							
	③							
(5)指標の推移に影響を与えるような外的な要因はあるか。それは何か。								

4. 環境分析	(1)事業開始の背景・開始時の環境	新鎌ヶ谷総合乗換駅のポテンシャルから、事業実現化を目指し沿線地域の関係団体と組織化が図られた。	(2)過去5年間で事業を取り巻く環境はどのように変わったか ※新規は記入不要	・成田新高速鉄道が平成22年7月に開業を迎えた。 ・千葉ニュータウン事業の完了が平成25年度を予定している。
	(3)今後事業を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	・成田新高速鉄道の開業によって成田空港への乗降客数が見込まれる。 ・千葉ニュータウン事業の完了によって居住者人口の推移に影響が考えられる。	(4)事業について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見)	・鉄道の開業によって生活に密着した行動範囲となる「住み心地について」の意識満足度に影響が表れる。 ・新線への市民からの期待が高い。

5. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？ 利便性とまちづくりに大きな影響をもたらす公共交通機関の建設は行政の責務として県及び関係市と共に関与していく。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)事業の目的は上位の施策にどのように結びついているか。鉄道新線の開業に伴っては総合基本計画である「躍動感と魅力あふれる交通拠点都市」をめざすべく、新市街地の整備や質の高い既成市街地への誘導となる。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？ 必要となる対象を広げたり狭めたりできないか？ 新線の開業によって鉄道やバスなど、市域全体の公共交通機関の需要が高まりそれによって市民の利便性が確保される。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この事業を廃止した場合、施策達成に支障があるか。同じ目的を持つ他の事業はあるか？ さらに成果指標を伸ばせないか？ 千葉ニュータウンの事業終了による影響と東京10号線が本八幡まで運行されている状況から、新線の開業は今後の沿線市のまちづくりに大きく影響がある。このことから、事業の必要性について様々な検討と陳情活動が必要不可欠であるとともに、成果指標となっている鉄道やバスの乗降客数が見込まれるまちづくりへの誘導が必要と考えられる。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかりすぎているか？ 事業費、所要時間を縮減する手段・方法はないか？ 必要な研修会や会議を開催し、新線への事業促進が図られるよう関係団体と調査・研究を行っている。
	(6)総合評価	6: 精査・検証	(今後の方向内容) 引き続き東京10号線の開業へ向けて必要な基礎調査や整備条件等の検討を行い、関係団体である、千葉県、市川市、鎌ヶ谷市の協力体制を推進していく。

6. 改革・改善内容	(1)前回の事務事業評価で掲げた改革・改善内容	引き続き実現化へ向けて、県及び関係市との連携と関連事業との整合を図る。
	(2)(1)に基づく取り組み結果	県及び関係市と連携を図り国へ要望活動を行った。
	(3)平成25年度に取り組み改革・改善内容	引き続き実現化へ向けて、県及び関係市との連携と関連事業との整合を図る。

※評価検討(1)~(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない

※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 精査・検証、7: 拡充

1 終了: 事業が完了したので、終了する

2 廃止: 事業を廃止する

3 休止: 再開を前提に休止する

4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する

5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する

6 精査・検証: 業務手法等について精査・検証の上、継続

7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する